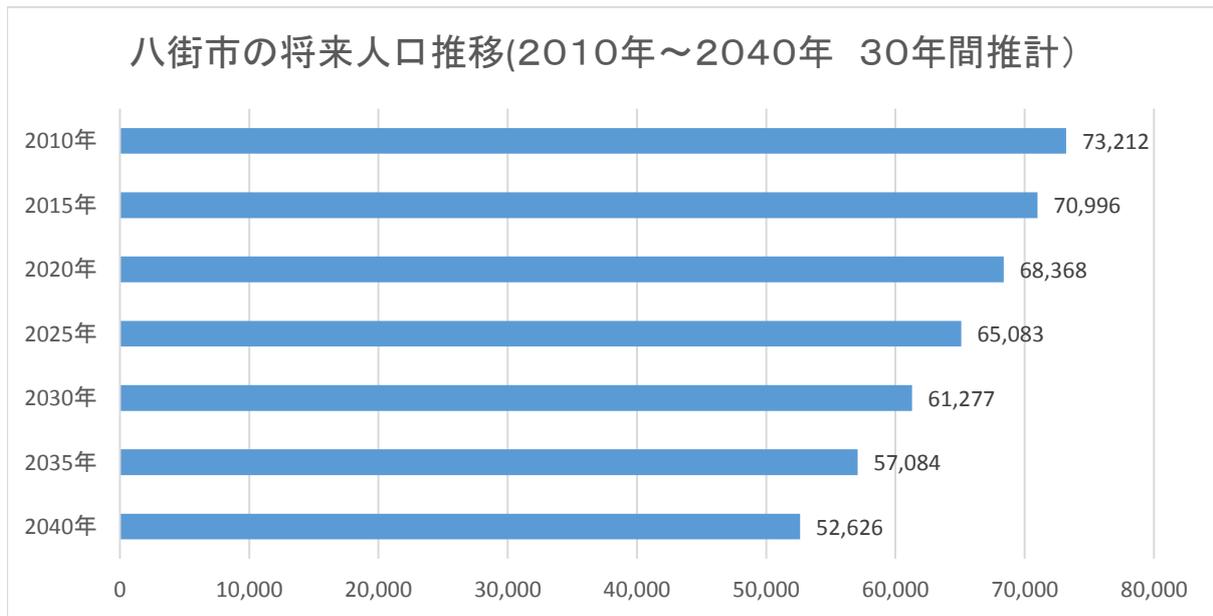


八街市の将来人口推計



年齢別人口割合(2010年～2040年 30年間推計)

	2010年	2025年	2040年
0-14歳	13.0%	8.8%	7.7%
15-64歳	67.3%	56.9%	49.3%
65歳以上	19.7%	34.4%	42.9%
75歳以上	7.8%	18.7%	25.8%

参考文献

日本の地域別将来推計人口(平成25年(2013)年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

30年間で人口が約2万人減少し、65歳以上の高齢者割合が、現状のほぼ倍の約43%となる。
(あくまでも、八街市による人口推計ではなく国立社会保障・人口問題研究所が公表したもの)

65歳以上の者がいるの世帯構成

65歳以上の者がいる世帯構成において、昭和50年では、三世代世帯が半数以上の割合を占めていたが、現在では、1位、夫婦のみ世帯29.9%、2位、単身世帯24.3%、3位、親、独身の子18.5%、4位、三世代世帯16.2%となり、三世代世帯の順位が最下位となった。

65歳以上の者がいる世帯構成（全国）

（単位%）

		S50		S61		H13		H19		H21		H22
夫婦のみ世帯	2位	13.1	2位	18.2	1位	27.8	1位	29.8	1位	29.8	1位	29.9
単身世帯	4位	8.5	3位	13.1	3位	19.4	2位	22.5	2位	23.0	2位	24.3
親、未婚の子世帯	3位	9.6	4位	11.1	4位	15.6	4位	17.8	3位	18.5	3位	18.5
三世代世帯	1位	54.4	1位	44.8	2位	25.5	3位	18.3	4位	17.5	4位	16.2
その他		14.4		12.7		11.6		11.7		11.2		11.2

参考文献 一国民生活基礎調査（平成22年）の結果から一

※各年の順位は「その他」を除く。

昭和22年以前に生まれた世代は兄弟が多かった（合計特殊出生率4.3）が、それ以降の世代から徐々に兄弟の数が減り身内の人数も減っている。（現在の合計特殊出生率1.39）子育てが終わり、夫婦のみ世帯は、どちらかが先立てば一人世帯となる。（単身世帯予備軍29.9%）

これからの時代、独り暮らしとなった場合に、身内の世話を受けることができない人が多くなる。

その時大切なのが、地域コミュニティとなり「遠くの身内より近くの他人」という言葉のとおり、地域コミュニティが主体となり高齢者の見守り等を行い、互いに助け合いながら、孤立を無くしていかなければならない時代となる。

これからの地域コミュニティの役割は、地域交流等の行事を行うだけでなく少子高齢化・人口減少に伴う課題に対する自助による住民自治の事業を行う役割が求められている。

このような地域事業を行うには、自治会等の地域コミュニティのみで事業を実施するのではなく、行政や各種団体等が協働で事業を実施するなど様々な組み合わせが考えられ、それらの団体が協働で活動することにより、多種多様なニーズが対応可能になると考えられることから、検討会において本市における協働のまちづくりの仕組み・推進策等を検討していく。